

山口県における小中連携―見通しを持って学びをつなげる―

又野陽子（博士（教育学））

本県には、小中連携推進型少人数指導という取組があります。校区内の小学校に、日課表に位置付けて中学校教員が訪問し、小中連携の推進と校内研修の活性化を図っています。

私は校区内の2つの小学校を訪問して、国語や算数、理科の授業（TT）に T2 として入らせていただいたり、外国語の授業を T1 で行ったりしています。小学校の学習内容や学習環境を知り、中学校の様子をお伝えすることにより、小中で子どもの学びをつなぐ視点を共有する機会となっています。夏季休業中には小学校の校内研修会で模擬授業形式のワークショップの依頼があり、児童の興味を引き集中力を高める仕組み、児童の理解を助ける工夫、ほめる声かけ、ハンドジェスチャー等をお伝えしました。「模擬授業スタート時の第一声でぐつと授業に引き込まれました」「英語は楽しいと子ども達も感じていると思います」等のコメントをいただきましたが、私自身がとても楽しく、先生方の力になりたいと強く感じました。

小学校での授業を通して出会った子ども達は4月に中学校に入学してきます。「又野先生！」“Hello!” など声をかけてくれます。子ども達との嬉しい再会です。小学校で育まれた力や学習の成果を中学校の学習に丁寧につないでいきます。授業規律、英語で行う授業等、実際に授業の中で指導を積み重ねて生徒を育てていきます。丁寧に指導を積み重ねていくと、文型練習の際にも場面に基づいた教師の cue とそれに対する生徒の応答を繰り返していく Selection の段階まで生徒を導き、非常にテンポよく口頭作業を行うことができるようになります。生徒の振り返りシートにも「口から自動的に英語が出てきて、とても良いシステムだと思います」「英語の授業はリズムカルで楽しかった」というコメントが見られます。

昨年度末、最後の授業を VTR に収めました。「僕たち、みんなのお手本になるような授業をします！」「最後の授業、最高の授業にします！」と言って取り組んでいました。いつものように英語でモットーを口ずさみ、素早く起立し、音楽を使ってウォーム・アップした後、テンポよく Selection を行いました。モデル文の復習により文章構成を確認し、英語でプレゼンテーション。発表者と聴き手の生徒達で英語による Q & A を楽しみました。こうした生徒の姿をビジョンとして持ちながら、児童の初めての英語との出会いを大切につくっていくことを小学校訪問時に心がけています。

（研究所会員／山口市立鴻南中学校）